

ウシオ電機株式会社
2017年3月期
決算説明会

2017年5月11日

<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

2016年度は 減収減益決算

対公表値は売上高で達成、営業利益で若干未達

2017年度は 増収増益を予想

ウシオ電機の固定費削減効果もあり

2019年度を最終年度とする新中期経営計画の達成目標
営業利益150億円、営業利益率7.5%

- I. 2016年度 通期業績概況
- II. 2017年度 業績予想
- III. 中期経営計画
- IV. 参考資料

今回の決算発表のポイント

連結売上高は前年比3.5%減の1,728億円
連結営業利益は前年比34.5%減の86億円となり減収減益決算
公表値に対する達成度：売上高102%、営業利益96%

売上高：1,728億円（前年比▲62億円、3.5%減）

- ・円高により約120億円減収

営業利益：86億円（前年比▲45億円、34.5%減）

- ・円高により18億円減益
- ・映像装置で構造改革を実行するも総利益ベースでの収益性悪化をカバーできず

親会社株主に帰属する

当期純利益：70億円（前年比▲40億円、36.6%減）

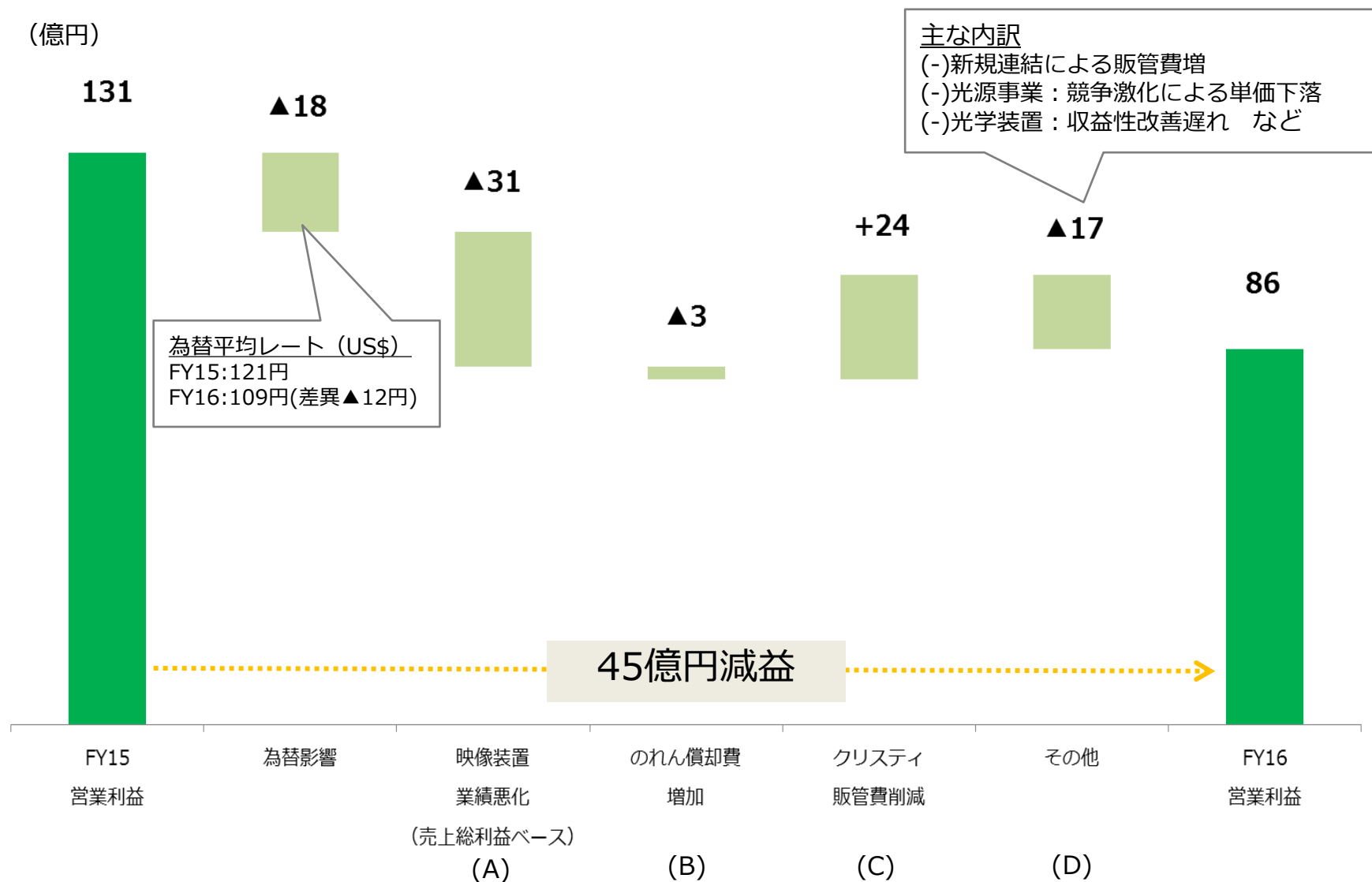
- ・特別利益「投資有価証券売却益」27億円、特別損失「事業構造改善費用」20億円

※為替平均レート（USD） FY15：121円、FY16：109円（▲12円）

2016年度 通期 売上高・損益

(億円)	FY15	FY16	前年比		
			増減	%	
売上高	1,791	1,728	▲62	▲3.5	
営業利益	131	86	▲45	▲34.5	
営業利益率 (%)	7.3	5.0	▲2.4P	-	
経常利益	146	110	▲36	▲24.8	
親会社株主に帰属する 当期純利益	111	70	▲40	▲36.6	
EPS (円)	85.83	55.06	▲30.79	▲35.9	
ROE (%)	5.2	3.3	▲1.9P	-	
配当金 (円)	26	26	-	-	
配当性向 (%)	30.3	47.2	+16.9P	-	
為替平均レート (円)					
	USD	121	109	▲12	-
	EUR	133	119	▲13	-

対前年比 営業利益増減分析 (通期)



注：(A) (B) (C) (D)の金額は為替影響を除く

通期公表値・実績比較


(億円)	FY16 (7.29公表値)	FY16 (実績)	差異	達成率(%)	
売上高	1,700	1,728	+28	101.7	
営業利益	90	86	▲3	95.6	
営業利益率 (%)	5.3	5.0	▲0.3P	-	
経常利益	100	110	+10	110.0	
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	70	+0	100.6	
EPS (円)	54.72	55.06	+0.34	100.6	
設備投資額	80	102	+22	128.2	
減価償却費	70	65	▲4	94.1	
研究開発費	110	98	▲11	89.2	
為替平均レート (円)					
	USD	105	109	+4	-
	EUR	115	119	+4	-

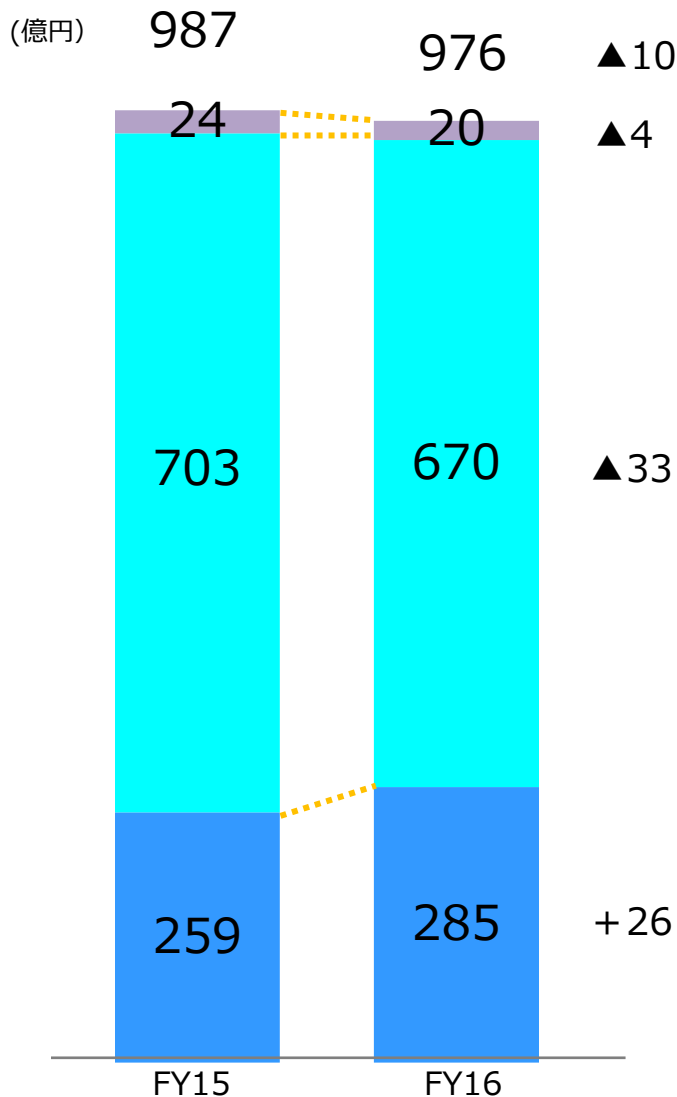
セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		FY15	FY16	YoY	
				増減	%
装置事業	売上高	987	976	▲10	▲1.1
	営業利益	17	0	▲16	▲95.7
	営業利益率 (%)	1.7	0.1	▲1.7P	-
光源事業	売上高	772	719	▲53	▲6.9
	営業利益	109	81	▲28	▲26.0
	営業利益率 (%)	14.2	11.3	▲2.9P	-
その他	売上高	31	32	+1	+4.2
	営業利益	1	0	▲1	▲77.0
	営業利益率 (%)	5.7	1.3	▲4.5P	-
全社・消去	営業利益	2	3	+1	+49.4

注：売上高は外部顧客への売上高、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

装置事業セグメント概況（売上高）

《通期累計前年比》 



注：売上高は、外部顧客への売上高

装置事業 合計	売上高	通期の概況
	976億円 前年比 ▲10億円 ▲1.1%	映像装置は円高影響と競争激化により減収。光学装置は台数増加やミックス改善により増収

照明装置 他	20億円 前年比 ▲4億円 ▲16.5%	— 以下、為替影響を除く増減要因 — ・ 前期にテーマパーク向け大型案件あり
-----------	----------------------------	---

映像装置	670億円 前年比 ▲33億円 ▲4.7%	・ シネマ：+7% DCPの出荷台数はYoYで13%増加 ・ 一般映像：▲13% 蛍光体レーザータイプおよびフラットパネルの浸透により室内常設用の需要が減少
------	-----------------------------	---

光学装置	285億円 前年比 +26億円 +10.1%	・ UV装置：+12% デバイス用投影露光装置は減少するもパッケージング用が底堅く推移。次世代スマホのメイン基板用DI露光装置も立ち上がり貢献 ・ キュア装置：+18% スマホ用に加えTV用にも光配向装置を出荷。台数ベースではYoYで3割増加
------	------------------------------	--

映像装置事業の業績改善策の進捗について

■ 業績改善効果 (FY16)

リストラクチャリング実施による固定費削減

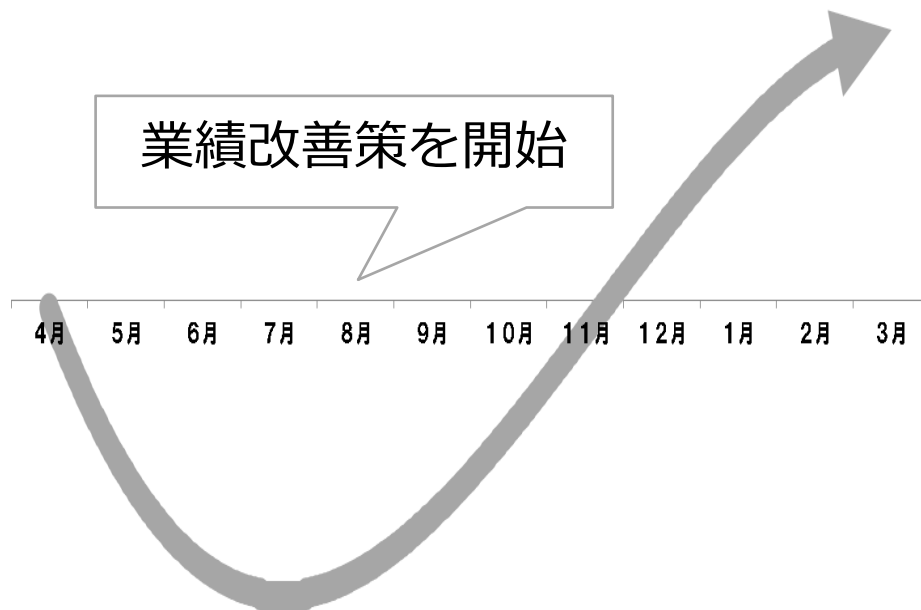
- ・ 人件費削減 (新規採用の凍結、人員削減、賞与減 等)
- ・ その他経費削減 (IT経費、広告宣伝費等の削減)

年間削減額 (販管費)

対前期比: **24億円**

※為替影響除く

■ クリスティの累積営業利益推移 (FY16)



FY17
以降

業績改善策を継続

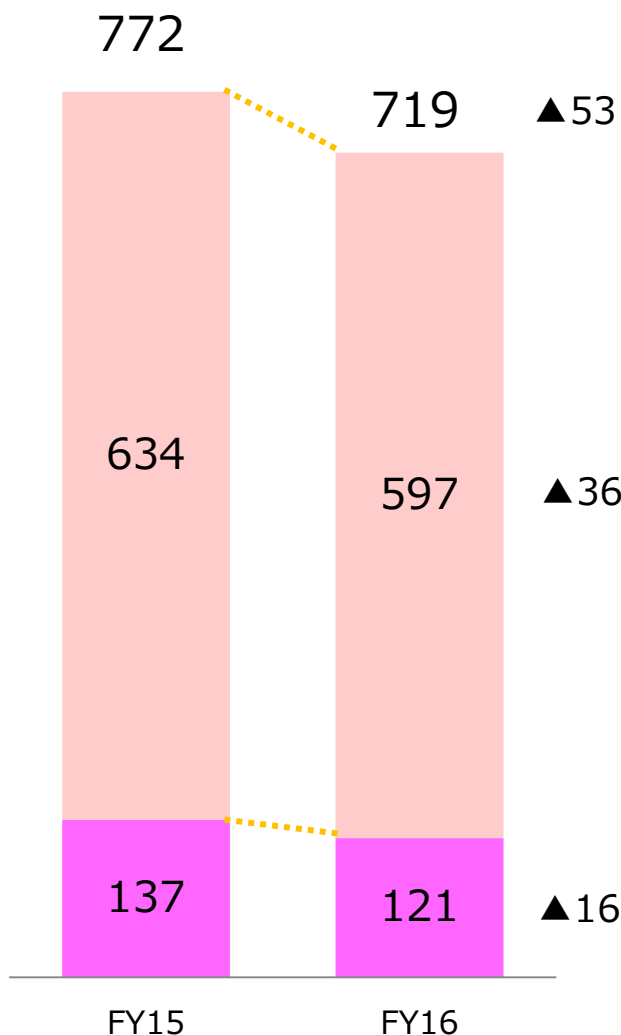
- ① 生産体制の見直し
- ② ビジネスモデル見直し
- ③ ハイエンドプロジェクター強化
- ④ トータルソリューション
ビジネス拡大

8月より単月黒字化。その後、安定的に推移

光源事業セグメント概況（売上高）

《通期累計前年比》 売上高

(億円)



注：売上高は、外部顧客への売上高

光源事業 合計	売上高	通期の概況
	719億円 前年比 ▲53億円 ▲6.9%	市場の需要は概ね堅調も、 主に円高影響により減収

ー 以下、為替影響以外の増減要因 ー



597億円

前年比 ▲36億円
▲5.8%

・UVランプ：▲4%
競争激化により単価下落は継続もユーザーの稼働は高水準を維持、設備投資も旺盛

・シネマ用ランプ：▲14%
単価の下落はあるが本数ベースでは増加

・データプロジェクター用ランプ：▲1%
長寿命の新製品や一般映像用途を中心に本数ベースでは増加



121億円

前年比 ▲16億円
▲12.1%

・OA用：▲12%
プリント需要が引き続き減少するも、高付加価値の環境対応製品の需要は継続

- I. 2016年度 通期業績概況
- II. 2017年度 業績予想
- III. 中期経営計画
- IV. 参考資料

2017年度業績予想

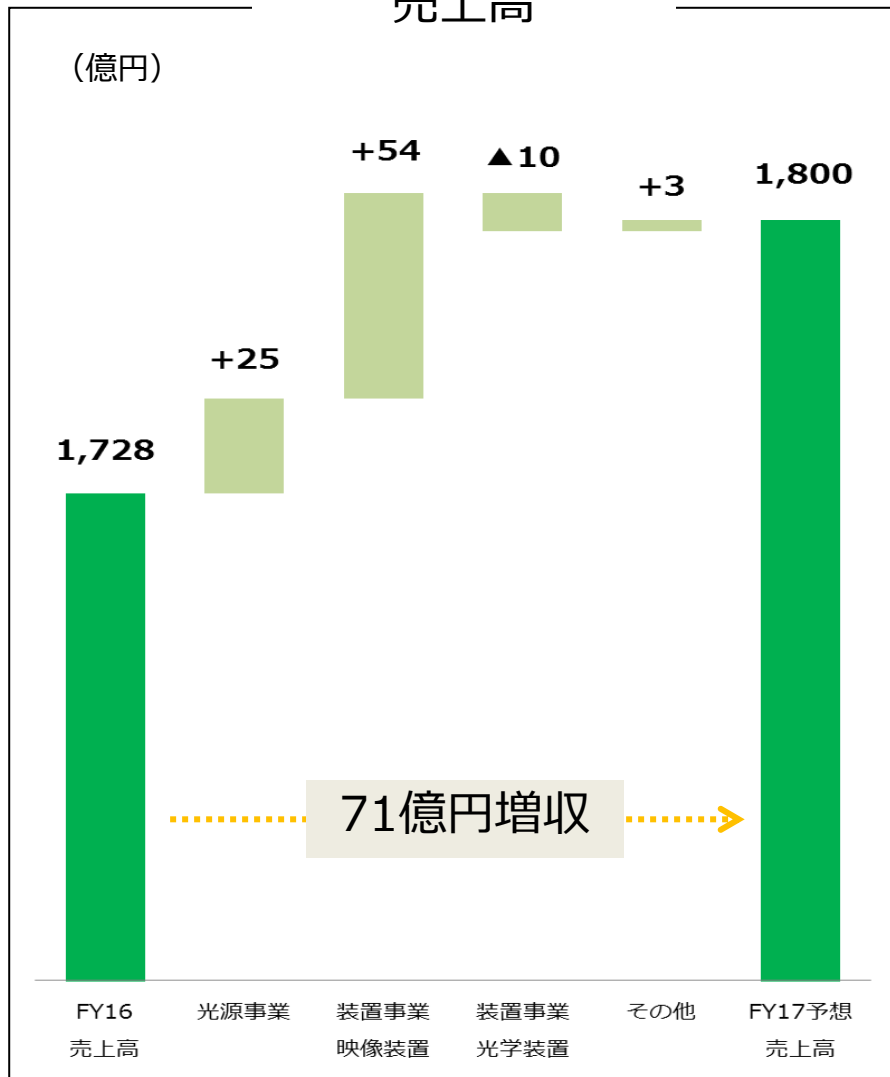
(億円)	FY16 (実績)	FY17 (予想)	YoY		1H/FY17 (予想)
			増減	%	
売上高	1,728	1,800	+71	+4.1	870
営業利益	86	100	+13	+16.2	45
営業利益率 (%)	5.0	5.6	+0.6P	-	5.2
経常利益	110	115	+4	+4.5	55
親会社株主に帰属する 当期純利益	70	110	+39	+56.2	85
EPS (円)	55.06	86.10	+31.04	+56.4	66.53
ROE (%)	3.3	5.1	+1.8P	-	-
配当 (円)	26	26	-	-	-
配当性向 (%)	47.2	30.3	▲16.9P	-	-
設備投資額	102	80	▲22	▲22.0	-
減価償却費	65	70	+4	+6.3	-
研究開発費	98	105	+6	+7.0	-
為替レート(円)	USD	109	110	+1	110
	EUR	119	115	▲4	115

為替感応度
1円変動による影響額 (通期)

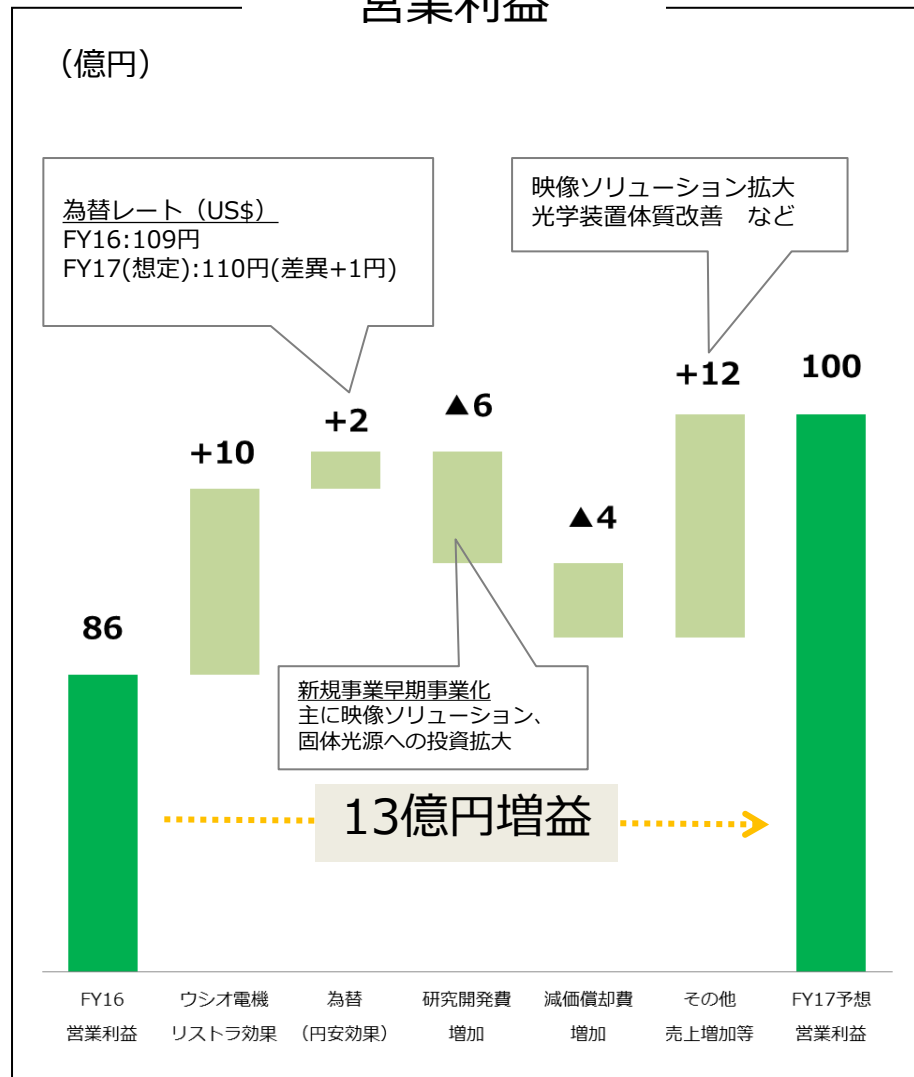
	売上高	営業利益
対USD	約10億円	約1.5億円

2017年業績予想 対前年比 売上高・営業利益増減分析

売上高



営業利益



サブセグメント別 売上高予想

(億円)		FY16 (実績)	FY17 (予想)	YoY	
				増減	%
装置事業	映像装置	670	725	+54	+8.2
	光学装置	285	275	▲10	▲3.8
	照明装置他	20	25	+4	+22.7
	小計	976	1,025	+48	+5.0
光源事業	放電ランプ	597	625	+27	+4.5
	ハロゲンランプ	121	120	▲1	▲0.9
	小計	719	745	+25	+3.6
その他事業	産業機械・その他	32	30	▲2	▲9.1
合計		1,728	1,800	+71	+4.1

注：売上高は、外部顧客への売上高

主なサブセグメント別 事業予想

装置事業 +5.0%

映像装置
+8.2%

- ・ DCPの販売台数は減少（中国を中心とする新興国での新規導入が鈍化）
- ・ Dolby Cinemaなどプレミアムシネマ向けレーザープロジェクターは増加
- ・ イベント、テーマパークなどのエンターテインメント向け映像装置の販売は増加
- ・ トータルソリューション事業が拡大

光学装置
▲3.8%

- ・ 収益性重視による案件選別により売上は減少
- ・ 液晶関連装置の需要は減少
- ・ IoTによるセンサー系電子部品、次世代高密度プリント基板の需要拡大に対応する投影露光装置及び次世代スマホのメイン基板用DI露光装置の販売が増加

光源事業 +3.6%

放電ランプ
+4.5%

- ・ UVランプ、シネマ用ランプの需要は微増、一方で競争激化による単価下落などにより売上は横ばい
- ・ 固体光源は、プロジェクター用、印刷用などの産業用途で拡大

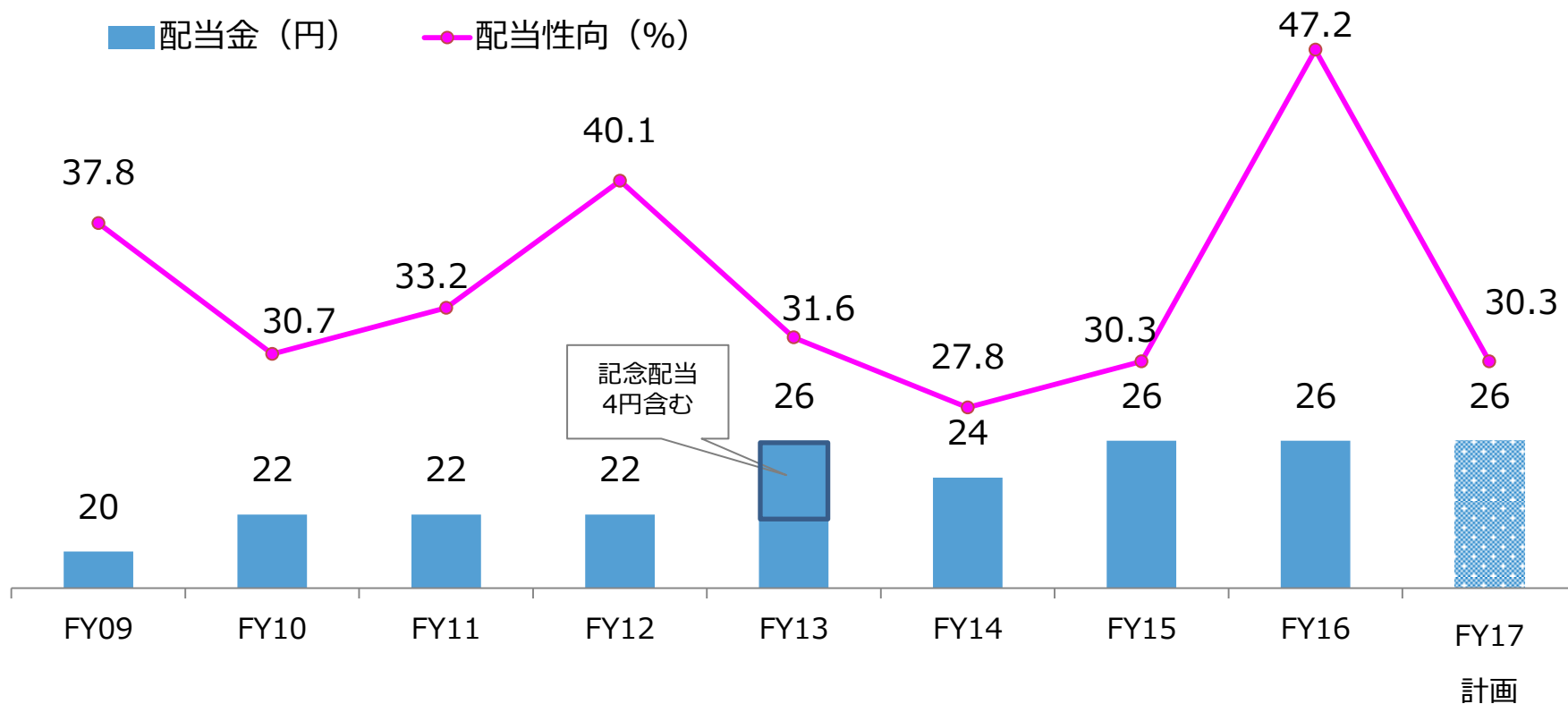
ハロゲンランプ
▲0.9%

- ・ OA用途は需要減少するも、高付加価値ランプによりほぼ横ばい

※増減率は 対FY16実績

株主還元

【方針】 安定的・継続的な利益還元
配当金：26円（FY16）



自社株買い：株価水準を考慮し機動的に実施

- I. 2016年度 通期業績概況
- II. 2017年度 業績予想
- III. 中期経営計画**
- IV. 参考資料

前中期経営計画（ローリング方式・FY16～FY18）の振り返り

2016年5月発表

高収益企業への変革

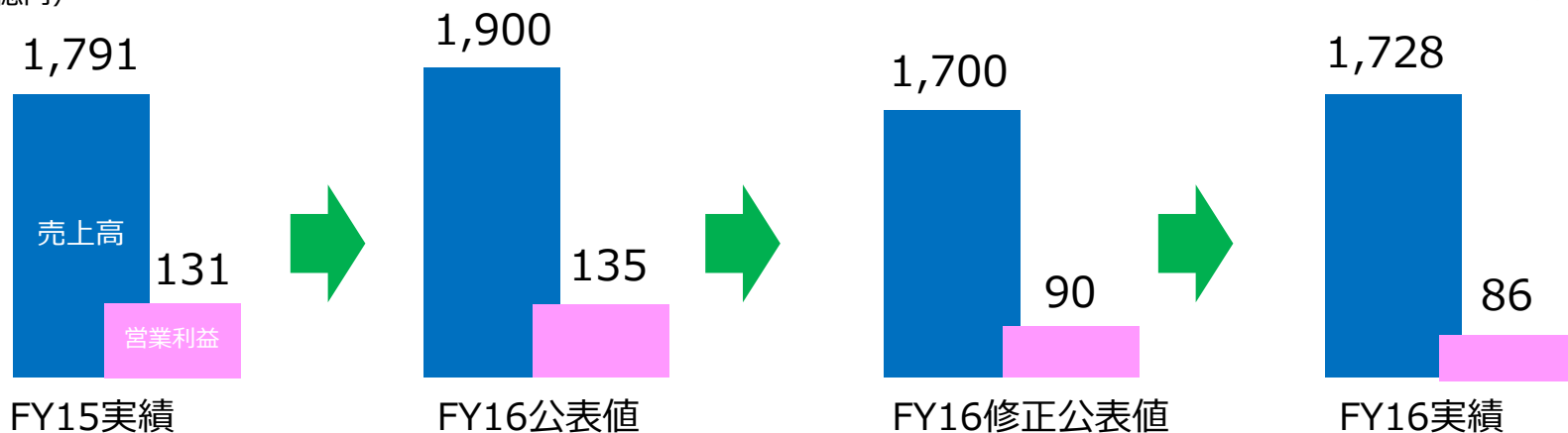
【FY18達成目標】営業利益 200億円(OPM8.7%)、売上高 2,300億円

【基本方針】「既存事業における収益性の維持・改善」と「新たな成長機会の追求」

7月	1Q決算で通期計画を下方修正	クリスティで人員削減実施（約100名）
10月	前中計の数値目標を取り下げ	-
12月	-	ウシオ電機で早期退職募集（約100名）

前期は
コストダウン
に注力

(億円)



前中期経営計画（ローリング方式・FY16～FY18）の振り返り

【重点施策の評価】

人員削減によるコストダウンを除き、取り組みはまだ道半ば

既存事業における 収益性の維持・改善	光学装置における構造改革	標準化は一部進展も、 生産移管は市場環境への対応により中断
	光源・装置事業のコスト競争力強化	ウシオ電機およびクリスティで 人員削減によるコストダウンを実施
新たな成長機会 の追求	既存製品の新規分野での展開	新規製品による実績への貢献が不十分、 既存事業への依存が継続
	ソリューションビジネスの本格展開	受注は増えてつつあるも売上・利益の貢献は限定的
	シナジー重視のM & A投資拡大	複数案件を検討も、成立した案件は僅少

※ガバナンス体制を改善

- ・取締役の半数以上が社外取締役に
- ・監査等委員会設置会社へ移行

役員会で中計に関する議論が活発化

上記重点施策は次期中計へ継承し「次なる飛躍」を目指す

次なる飛躍への基礎固め

重点施策

1. 既存事業の収益性維持・改善

- ・ 既存市場での競争力強化により利益確保とシェア維持

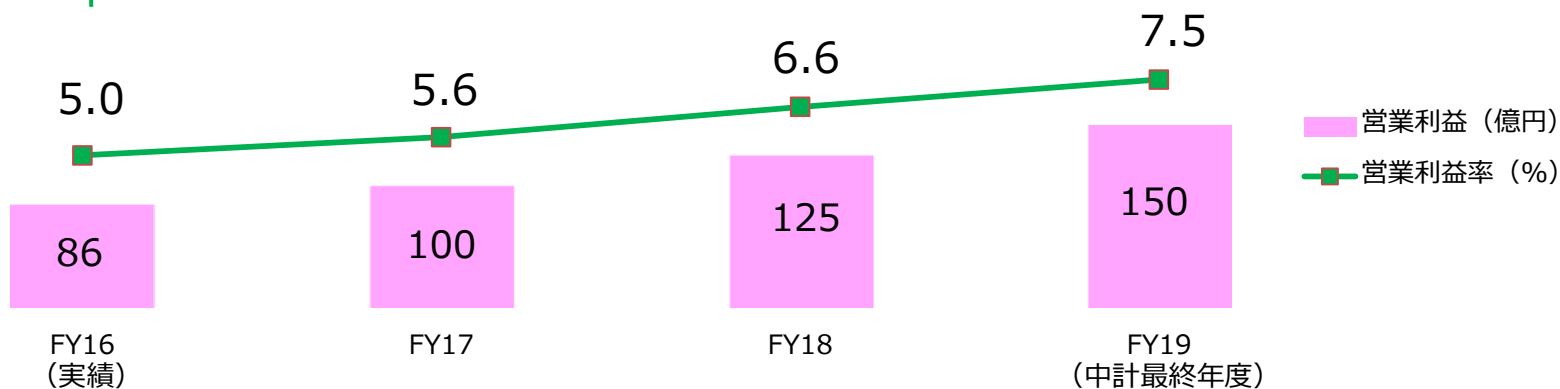
2. 新たな成長機会の追求

- ・ ウシオの強みを活かした新規市場開拓・新規事業創出
- ・ シナジー重視のM & A投資による新規市場開拓の加速

数値目標 (FY19)

重要業績評価指標（KPI）

営業利益 150億円／営業利益率 7.5%



※新中計より従来のローリング方式から3年間の固定方式に変更

新中期経営計画（固定方式・FY17～FY19）の骨子

重要業績評価指標（KPI）

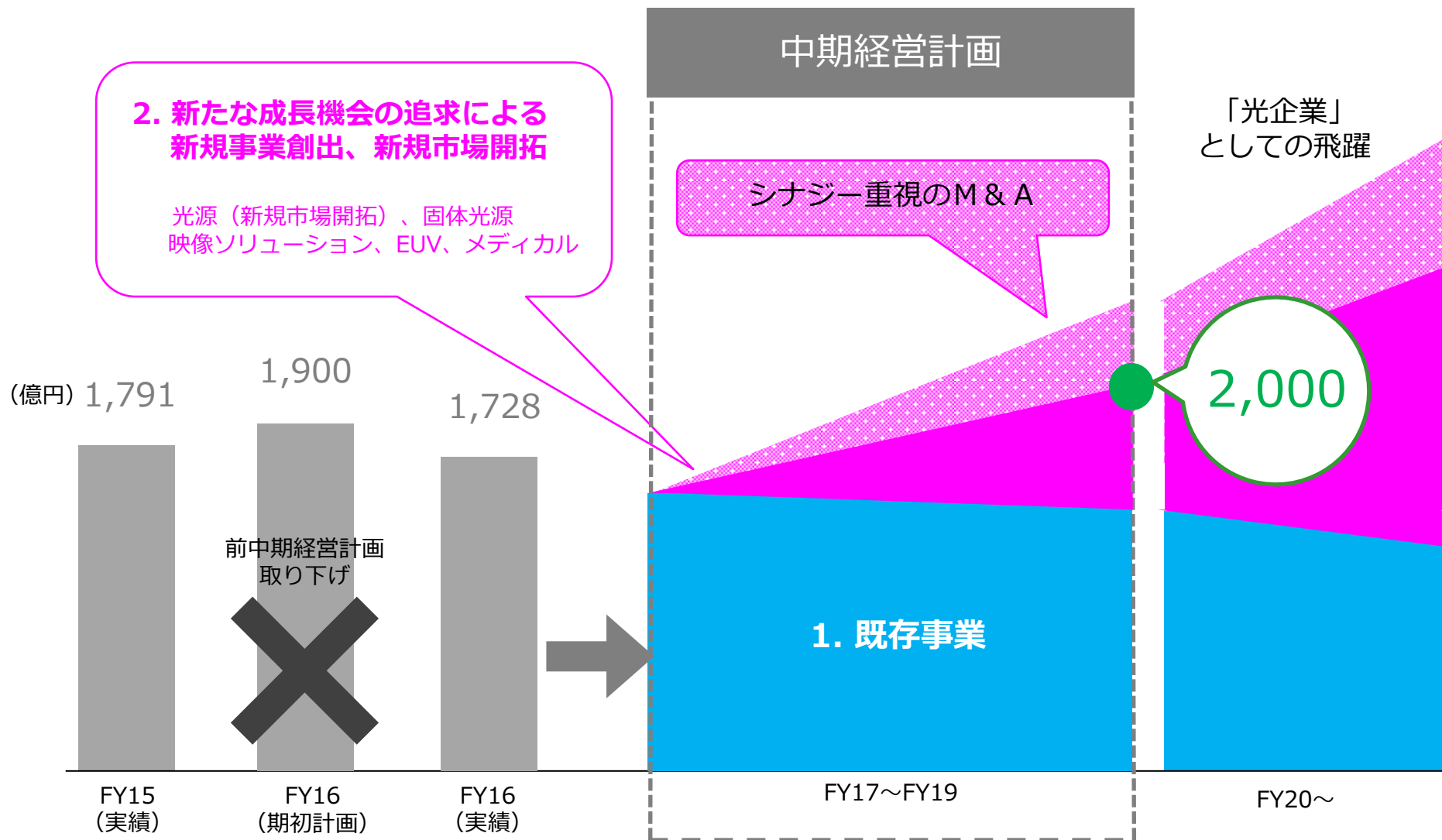
	FY16 実績	FY17 (中計初年度)	FY18 (中計2年目)	FY19 (中計3年目)	年平均成長率 (中計3か年)
営業利益（億円）	86	100	125	150	20.4%
営業利益率(%)	5.0	5.6	6.6	7.5	—

※参考数値

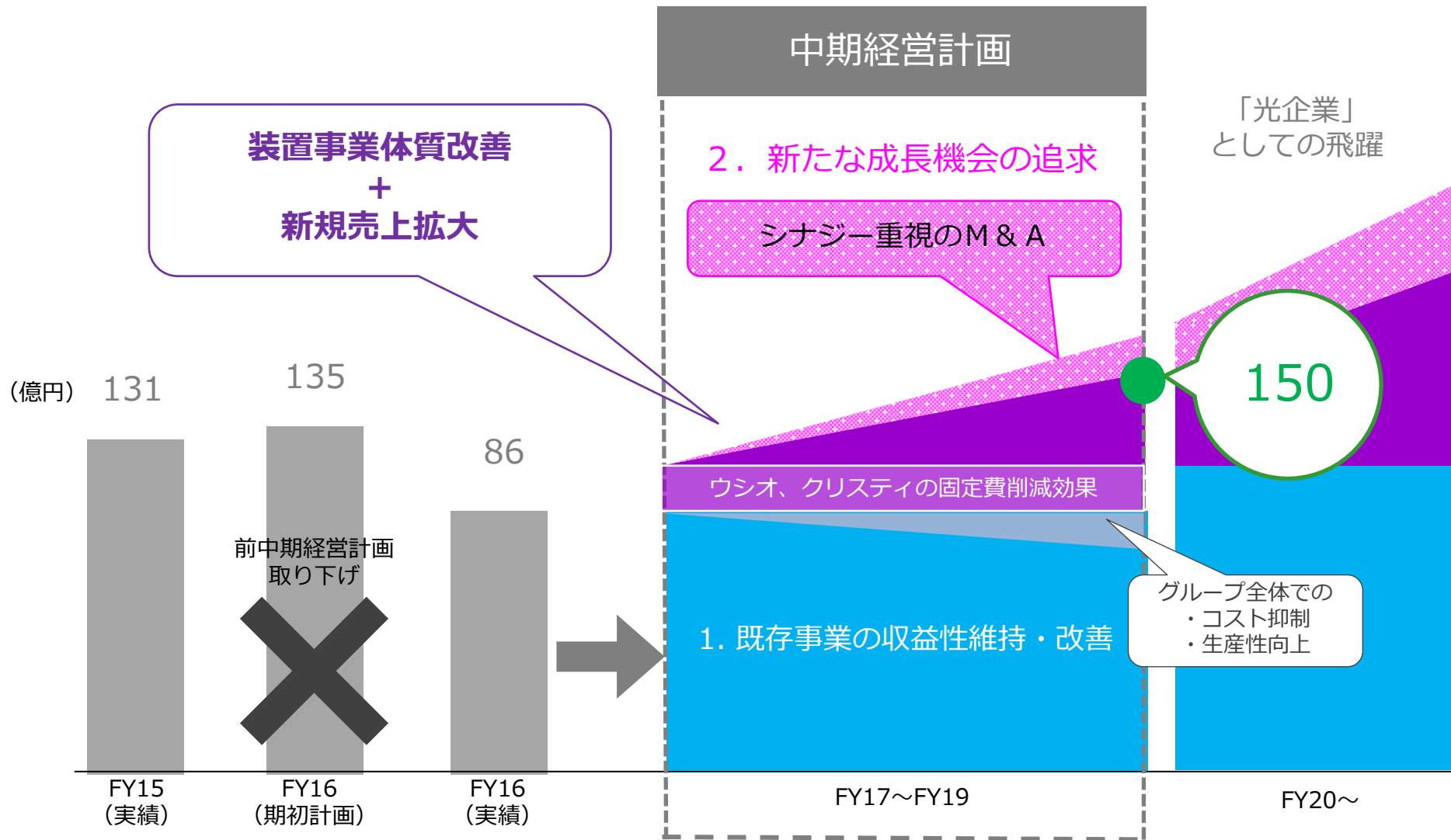
	FY16 実績	FY17 (中計初年度)	FY18 (中計2年目)	FY19 (中計3年目)	年平均成長率 (中計3か年)
売上高（億円）	1,728	1,800	1,900	2,000	5.0%
ROE(%)	3.3	5.1※	4.2	5.0以上	—
のれん等償却前 営業利益（億円）	102	118	142	162	16.8%
のれん等償却前 営業利益率(%)	5.9	6.5	7.5	8.1	—

※特別利益による特殊要因含む

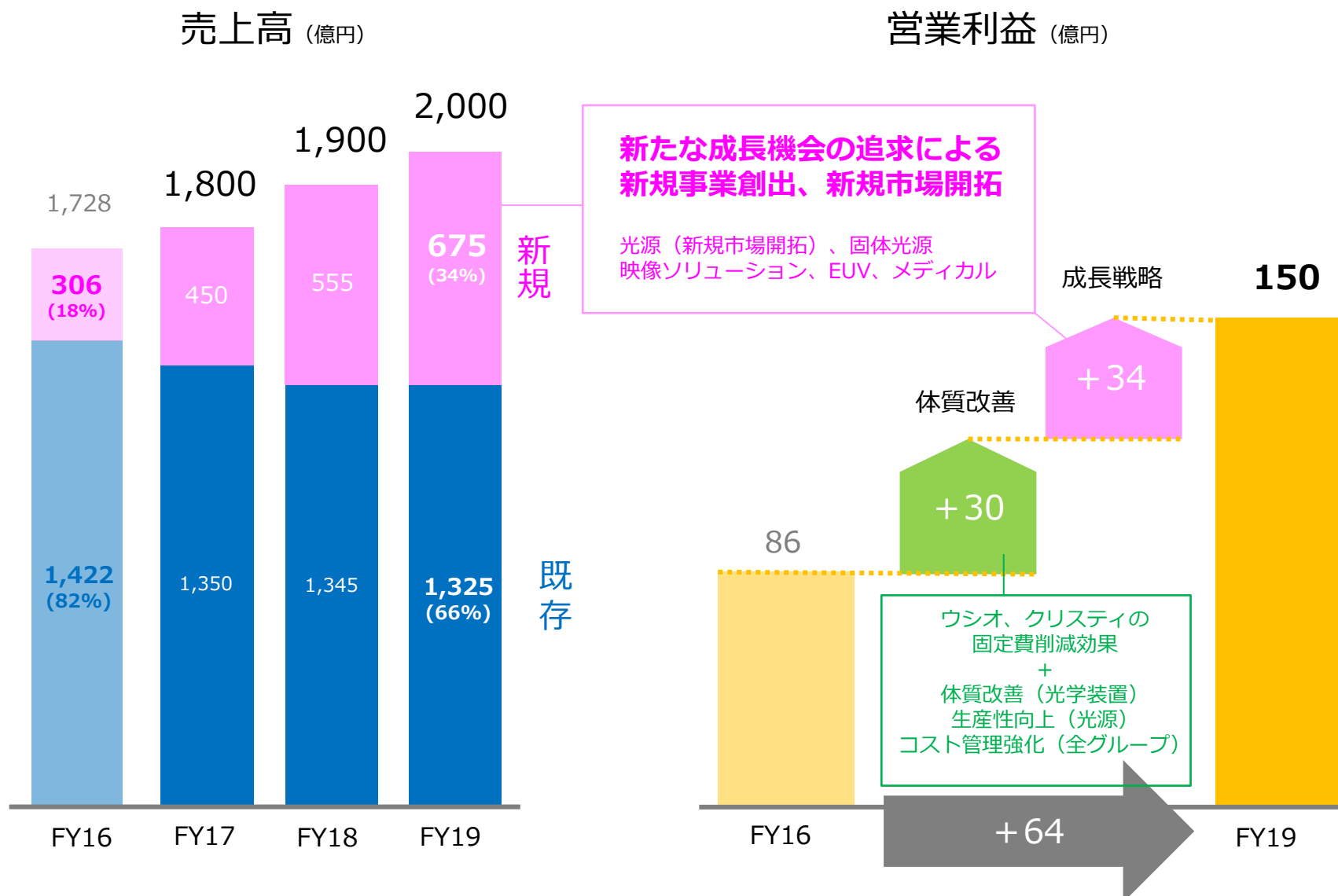
新中期経営計画最終年度（FY19）の成長イメージ（売上高）



新中期経営計画最終年度（FY19）の成長イメージ（営業利益）



新中期経営計画（FY17～FY19）の売上高、営業利益



シナジー重視のM&A投資を拡大

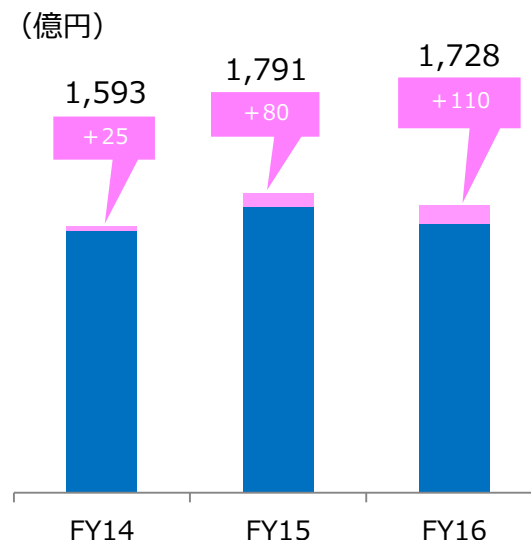
従来通り下記4重点分野を対象に検討、実施

光源事業	A. ランプ（新規市場開拓）
	B. 固体光源
装置事業	C. メディカル
	D. 映像装置（トータルソリューション）

過去案件（FY14～FY16）

	買収対象社名	分野	業務内容またはM&A目的
2014/05	Arsenal Media	D 映像トータルソリューション	デジタルコンテンツ制作
2014/10	日本オクラロ （事業の吸収分割）	B 固体光源	半導体デバイス技術の獲得
2014/12	BG Radia	D 映像トータルソリューション	音響システム
2015/01	Coolux GmbH	D 映像トータルソリューション	映像プロセッサ
2015/04	マックスレイ	B 固体光源	LED照明
2015/11	Allure Global Solutions, Inc.	D 映像トータルソリューション	デジタルサイネージ関連
2016/01	American Green Technology, Inc.	A ランプ（新規市場開拓）	空間衛生用ランプと販売チャネル
2016/02	PD-LD, Inc.	B 固体光源	映像用レーザー光源関連
2016/04	サンソリット	C メディカル	スキンケア

M&Aによる売上寄与



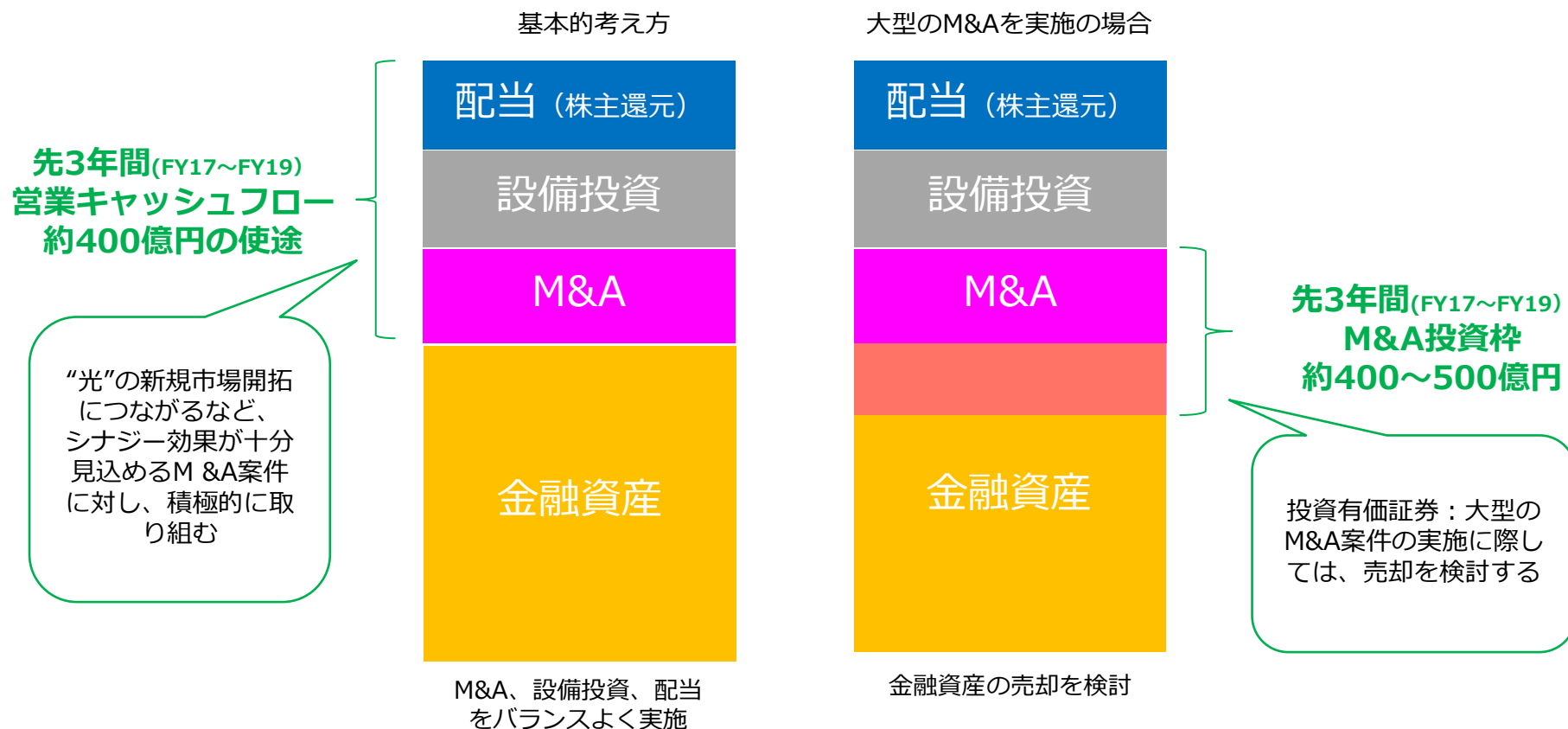
M&Aによる営業利益*寄与

約70億円

(FY07～FY16)の10年間累計
※のれん等償却前営業利益

新中期経営計画（FY17～FY19）の資本政策、キャッシュの使途など

株主還元：安定的・継続的な利益還元



ROE改善について：営業利益の増加により改善を目指す

自社株買いについて：株価水準を考慮し、機動的に実施する

新中期経営計画（FY17～FY19）の事業別重点施策

「既存事業の収益性維持・改善」と「新たな成長機会の追求」

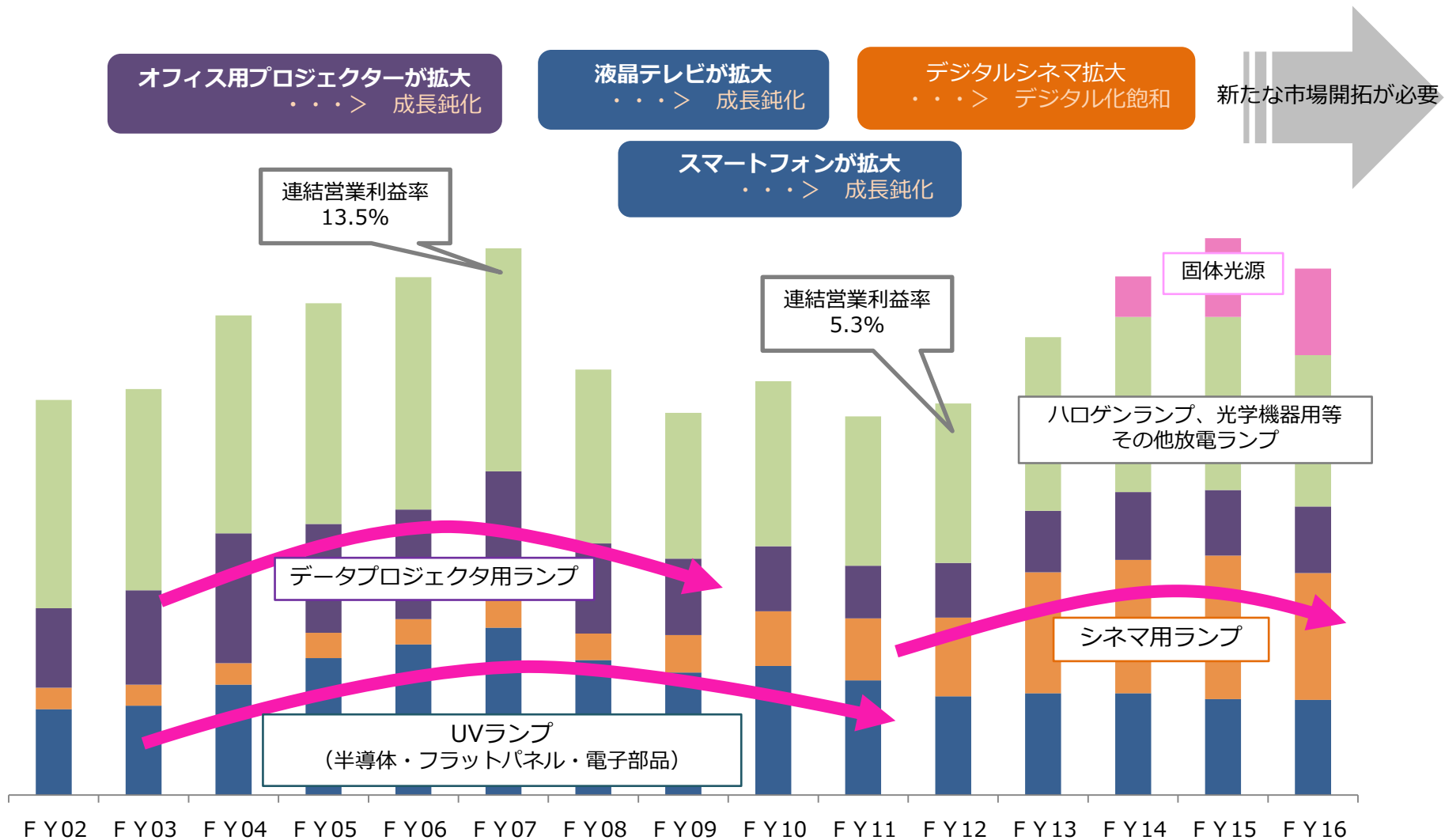
	1. 既存事業の 収益性維持・改善	2. 新たな成長機会の追求	
装置事業	コストダウンによる価格競争力強化、体質改善	映像ソリューション ビジネス拡大 メディカル事業の 黒字化	シナジー重視 のM&A投資
光源事業	生産性向上、コストダウン による価格競争力強化	既存ランプの 新市場開拓 独自性のある 固体光源事業の 確立	R&Dを新規事 業に集中投資
	既存製品・既存市場	新規製品・新規市場	

新中期経営計画（FY17～FY19）の事業別売上高

セグメント	サブセグメント			1年目	2年目	3年目	3年間の増減 (FY19-FY16)		CAGR
		FY15	FY16	FY17	FY18	FY19	(億円)	(%)	(%)
		(実績)	(実績)	(計画)	(計画)	(計画)			
装置事業	映像装置	703	670	725	740	775	105	16	5
	光学装置	259	285	275	305	330	45	16	5
	照明装置	24	20	25	25	25	5	25	8
	小計	987	976	1,025	1,070	1,130	154	16	5
光源事業	放電ランプ (固体光源含む)	634	597	625	690	730	133	22	7
	ハロゲンランプ	137	121	120	110	110	-11	-9	-3
	小計	772	719	745	800	840	121	17	5
その他	産業機械・他	31	32	30	30	30	-2	-6	-2
合計		1,791	1,728	1,800	1,900	2,000	272	16	5
全社	営業利益(億円)	131	86	100	125	150	64	74	20
	営業利益率 (%)	7.3	5.0	5.6	6.6	7.5	2.5p	-	-

事業別戦略／光源事業（売上高推移）

各種ランプのマーケット拡大期は過ぎ、成長が鈍化



事業別戦略／光源事業

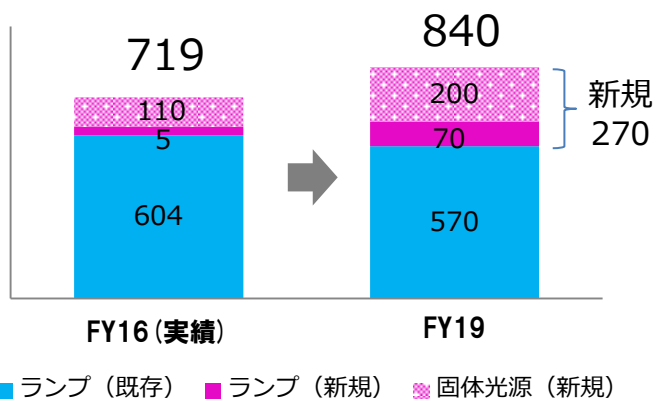
1. 収益性維持改善

－ITロボット化などによる製造コストダウン、
国内外生産拠点比率の適正化

2. 新たな成長機会の追求

－新規市場に向けた既存ランプの新用途開発、固体光源※、M&A

売上高（億円）



新規市場×既存製品



「安心、安全、快適、便利」な社会に向けた事業例：

空間殺菌・脱臭用オゾンナイザー「ゼフィリア」
新しいソリューション型ビジネスモデルを構築中



ナトリウムランプを植物育成に使用：



釧路のパプリカ工場で採用

成長戦略



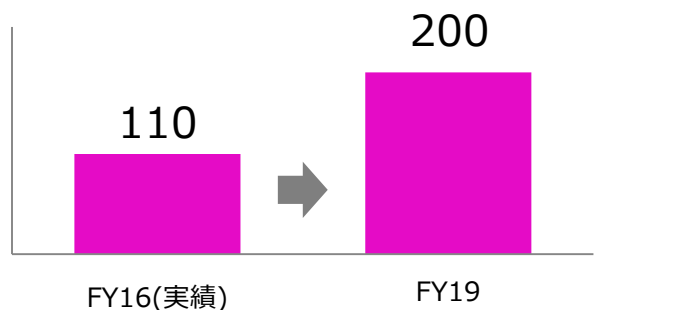
※IR資料において固体光源の売上高は光源事業の売上高に含まれております

(ご参考：事業別戦略 / 光源事業・固体光源)

既存ランプの置き換えビジネス — ランプ、固体光源を併せてウシオのシェア維持を目指す
(例：照明、シネマプロジェクター、UV印刷)

固体光源ならではの新用途開拓 — シェアアップに貢献 (例：HUD、センサー、メディカルなど)

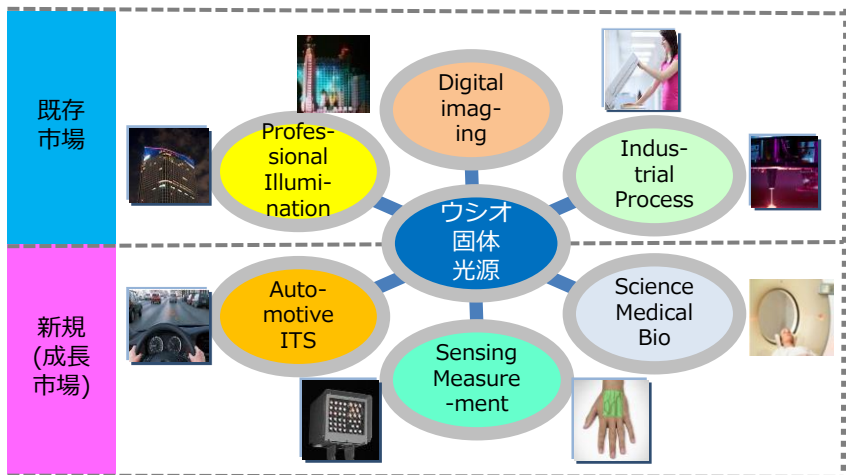
売上高 (億円)



重点領域のなかでも自動車、センシング、サイエンス・メディカルが成長分野

ウシオ固体光源事業の強み

1. 産業用に特化した豊富な波長ラインアップ
2. ランプで蓄積した光学技術により光利用効率を最大化、ハイパフォーマンスを実現
3. プロフェッショナルユースに耐えられる高信頼性
4. グループ内でデバイス、モジュール、システム (装置) まで一貫して提供



事業別戦略 / 装置事業・光学装置

1. 収益性維持改善

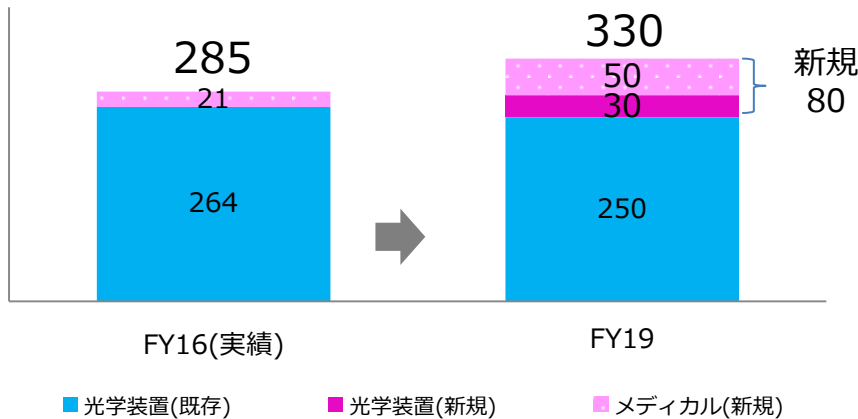
– 徹底した体質改善による光学装置の黒字化

2. 新たな成長機会の追求

– 検査装置用EUV事業の確立

売上高（億円）

成長戦略



収益性維持改善について（ウシオ製品）

1. 選択受注の実施
2. UXシリーズの設計標準化（新中計期間内で完了予定）
3. 設計標準化による資材調達のコストダウン

EUV

1. FY18より売上計上予定
2. FY19の売上計画約30億円
3. 二桁台数/10年間を出荷予定

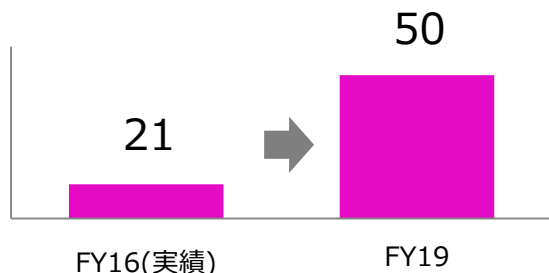


※IR資料においてメディカルの売上高は光学装置の売上高に含まれております

(ご参考：事業別戦略／装置事業・メディカル事業)

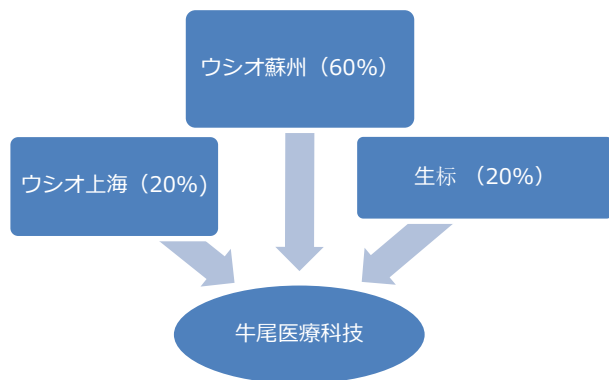
1. **スキンケア事業** —皮膚治療分野での新製品開発・販売品目の追加、化粧品のアジア圏販売
2. **動物用血液検査システム** —中国外での販売、検査項目追加
3. **牛尾医療科技（蘇州）有限公司による中国市場での事業展開**
4. **バイオマーカー事業** —販売チャネルの拡大

売上高（億円）

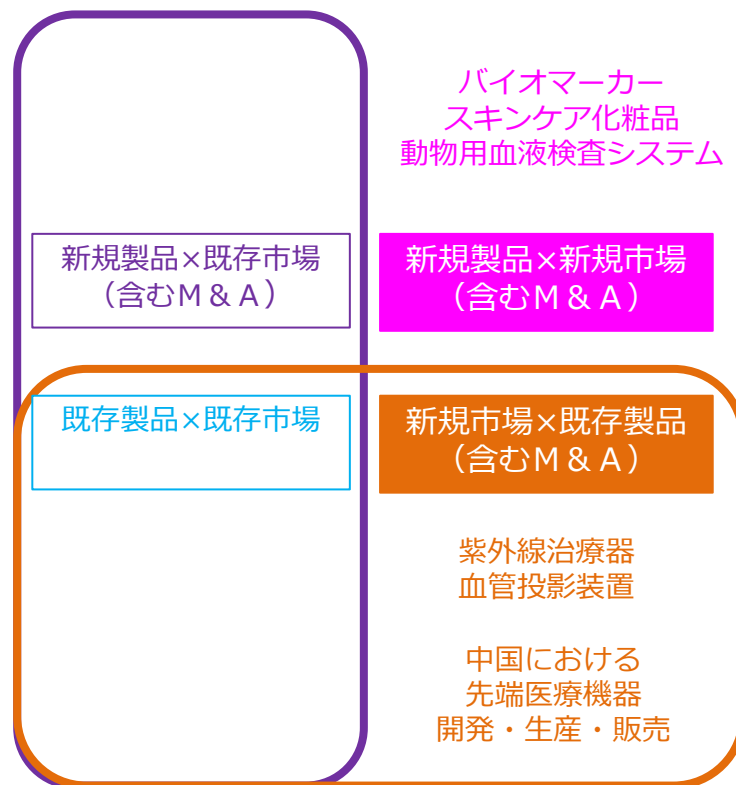


牛尾医療科技（蘇州）有限公司
(USHIO Medical Technology (Suzhou)Co., LTD.)

先端医療機器および周辺機器の研究開発・製造・販売を目的とする合弁会社。新製品の販売も開始予定



成長戦略



事業別戦略／装置事業・映像装置

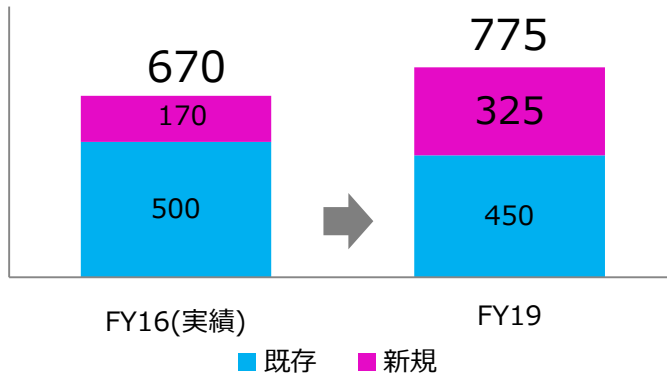
1. 収益性維持改善

－ 投資はコスト対効果のバランス重視、ロボット化による生産性向上

2. 新たな成長機会の追求

－ ソリューションビジネスによる売上拡大

売上高（億円）



成長戦略

RGBレーザー
プロジェクター

蛍光体レーザー
プロジェクター

新規製品×既存市場
(含むM & A)

新規製品×新規市場
(含むM & A)

既存製品×既存市場

新規市場×既存製品
(含むM & A)

【一般映像】
会議室、ホール、
プロジェクションマッ
ピング、VR、
シミュレーターなど

【一般映像】
Christie 360を核とする
トータルソリューションビ
ジネス

【シネマ】
映画館用

【シネマ】
Dolby Cinemaを含む
トータルソリューション
ビジネス

ソリューションビジネスの展開

【一般映像】 Christie360 (常設型プロジェクションマッピング)

ハードのみならずコンテンツ・ソフト・監視まで
トータルで提供するソリューション型新ビジネス

【シネマ】 DolbyCinema

(レーザープロジェクターによるプレミアムシアター)

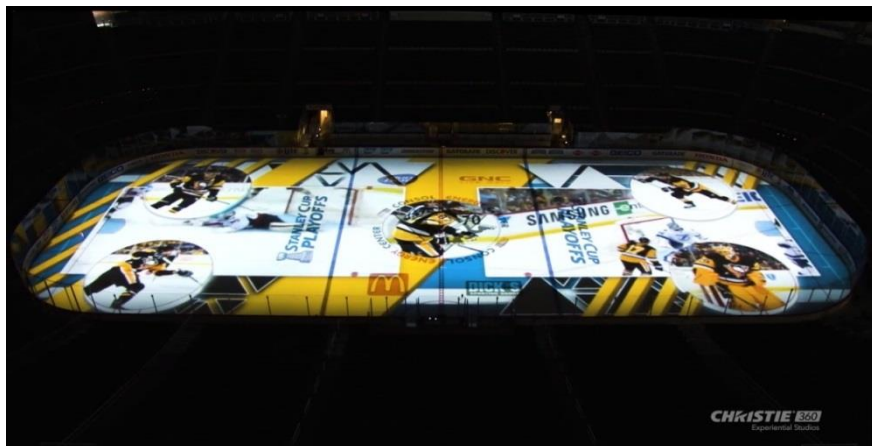
サイト数ー90サイト以上 (2017年4月現在)

2017年9月末までに140サイト。

グローバル合計325サイトに増加の見込み



ご参考：Christie360（常設型プロジェクションマッピング）



CHRISTIE® 360
Experiential Studios



Christie Boxer（プロジェクター）



CHRISTIE®
MYSTIQUE

Christie MYSTIQUE
(ソフトウェア)



Christie Twist
(画像ブレンディング装置)



Christie Pandora Box
(メディアサーバー)

※他の事例は下記リンクからご覧になれます

- <https://www.youtube.com/watch?v=l9EZqN5AkvE>
- <https://www.youtube.com/watch?v=v5cRoQgQzdw>
- <https://www.youtube.com/watch?v=ZnMlv3APXNo>
- <https://www.youtube.com/watch?v=ky4DR-iljLQ>
- <https://www.youtube.com/watch?v=vxk9lVpYfDY>
- https://www.youtube.com/watch?v=eVB8C_-7uuU

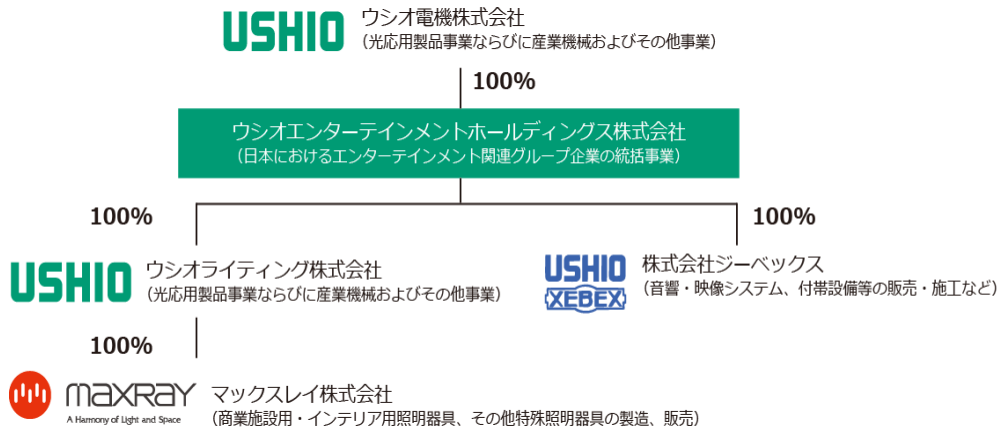
ご参考：第4四半期におけるプレスリリース（要旨）

日本におけるエンターテインメント事業強化に向け 統括会社を設立

－照明・映像・音響のグループ内リソースを最大化、
トータルソリューション提案へ－

日本における照明・映像・音響を中心としたエンターテインメント

事業の強化を目的に、当社のグループ会社である
ウシオライティング株式会社、マックスレイ株式会社
株式会社ジーベックスの3社を傘下に置く統括会社
「ウシオエンターテインメントホールディングス株式会社」
を2017年4月3日付で設立



これまでの3社協業の事例

アースシネマズ姫路



施主：株式会社アースシネマズ
映像・音響施工：ジーベックス
シネマプロジェクター：クリスティ・デジタル・システムズ製

オービィ大阪



施主：オービィ大阪
照明デザイン：東映建工
照明設計：ウシオライティング
照明機器・器具：ウシオライティング、マックスレイ
配線施工：ジーベックス

京都 BAL



事業主：中澤株式会社
外部演出照明：ウシオライティング
施設内照明：マックスレイ

ヒルトン東京ベイ 大宴会場「soara」



施主：ヒルトン東京ベイ
照明機器・器具：ウシオライティング

三島スカイウォーク



施主：株式会社フジコー
照明機器：ウシオライティング

六甲アイランド リバーモール



施主：神戸市
照明機器・器具：ウシオライティング

- I. 2016年度 通期業績概況
- II. 2017年度 業績予想
- III. 中期経営計画
- IV. 参考資料**

参考：四半期損益比較

《四半期損益比較》

(億円)	FY16		(A)	(B)	(B-A)	
	FY16 1Q	FY16 2Q	FY16 3Q	FY16 4Q	増減	QoQ %
売上高	399	425	424	478	+53	+12.7
営業利益	9	21	25	28	+2	+10.6
営業利益率 (%)	2.4	5.1	6.1	6.0	▲0.1P	-
経常利益	4	26	49	29	▲20	▲41.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	1	16	42	9	▲32	▲77.5
EPS (円)	1.24	13.24	33.15	7.48	▲25.67	▲77.4
為替レート (円)						
USD	111	104	106	114	+8	-
EUR	125	115	116	121	+5	-

参考：セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率 《四半期比較》

(億円)			(A)	(B)	(B-A)	
	FY16	FY16	FY16	FY16	QoQ	
	1Q	2Q	3Q	4Q	増減	%
装置事業						
売上高	212	240	236	287	+51	+21.7
営業利益	▲7	▲3	10	1	▲9	▲88.6
営業利益率(%)	▲3.6	▲1.5	4.6	0.4	▲4.1P	-
光源事業						
売上高	181	177	176	183	+6	+3.6
営業利益	17	23	14	26	+12	+83.7
営業利益率(%)	9.6	13.0	8.1	14.4	+6.3P	-
その他						
売上高	5	7	11	8	▲3	▲32.1
営業利益	▲0	0	0	0	+0	+867.2
営業利益率(%)	▲3.3	2.3	0.4	5.0	+4.7P	-

参考：前年同期比較 《四半期比較》

《前年同期比較》

(億円)	FY15	FY16	QoQ	
	4Q	4Q	増減	%
売上高	445	478	+32	+7.4
営業利益	*26	28	+2	+8.7
営業利益率 (%)	*5.9	6.0	+0.1P	-
経常利益	*15	29	+13	+86.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	*15	9	▲6	▲38.7
EPS (円)	*11.98	7.48	▲4.52	▲37.7
為替レート (円)				
USD	118	114	▲4	
EUR	129	121	▲8	

《セグメント別比較》

(億円)	FY15	FY16	QoQ	
	4Q	4Q	増減	%
装置事業				
売上高	245	287	+41	+16.9
営業利益	*0	1	+0	+45.0
営業利益率 (%)	*0.3	0.4	+0.1P	-
光源事業				
売上高	189	183	▲6	▲3.5
営業利益	*22	26	+3	+16.1
営業利益率 (%)	*12.0	14.4	+2.4P	-
その他				
売上高	10	8	▲2	▲20.9
営業利益	*1	0	▲0	▲69.0
営業利益率 (%)	*12.8	5.0	▲7.7P	-

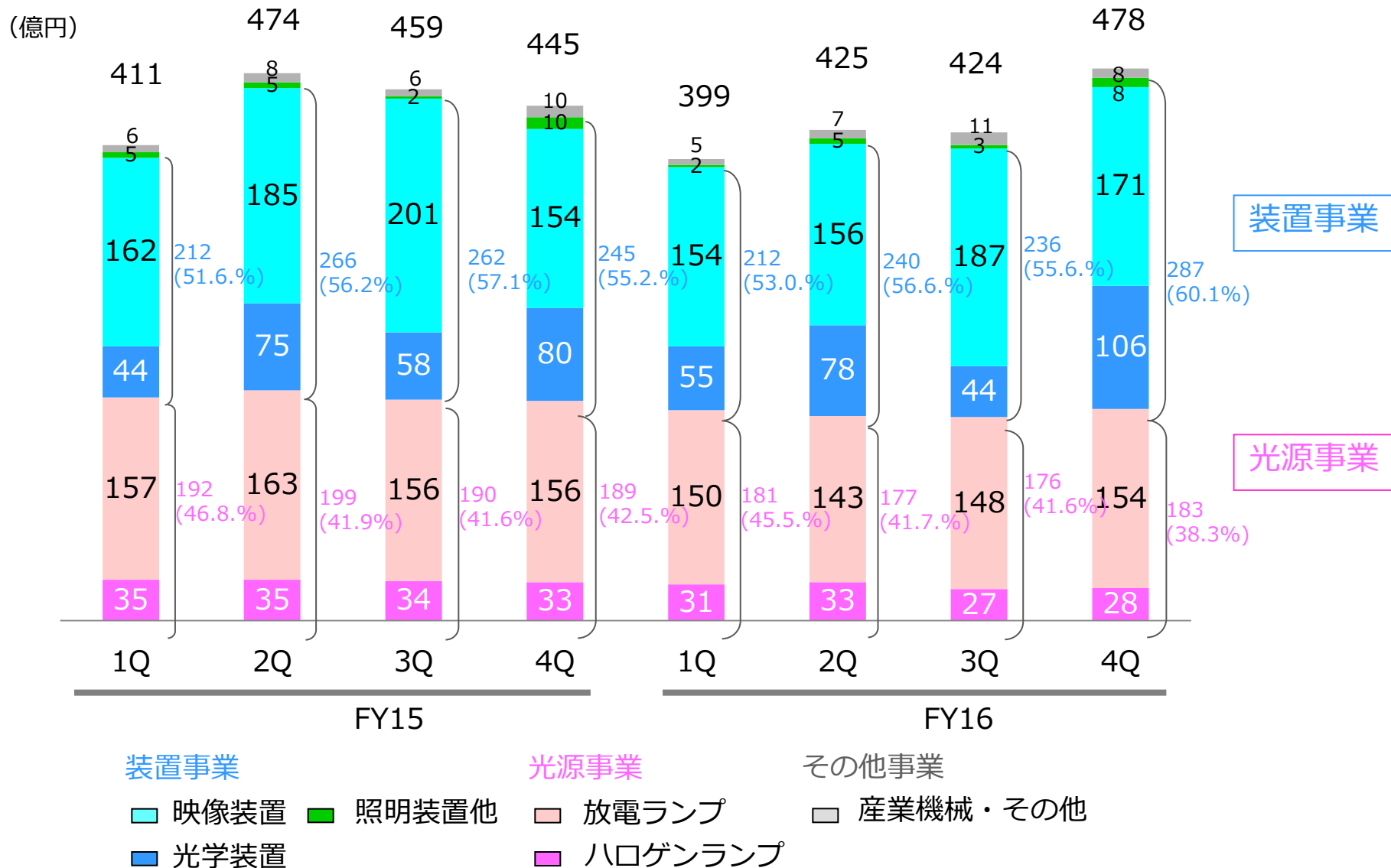
*前第3四半期連結会計期間の暫定的な会計処理が確定したことより前第4四半期連結会計期間の主要経営指標等が変更となっております。

参考：営業外収支、特別利益/特別損失《通期累計》

(億円)	FY15	FY16	YoY
営業外収益	23	34	+11
受取利息	7	8	+1
受取配当金	11	13	+1
為替差益	0	-	▲0
売買目的有価証券運用益	-	4	+4
その他	4	8	+4
営業外費用	8	10	+2
支払利息	2	3	+0
売買目的有価証券運用損	3	-	▲3
為替差損	-	6	+6
その他	2	0	▲1
営業外収支	15	23	+8

(億円)	FY15	FY16	YoY
特別利益	20	32	+11
固定資産売却益	11	4	▲6
投資有価証券売却益	2	27	+24
負ののれん発生益	5	-	▲5
特別損失	14	26	+11
事業構造改善費用	-	20	+20
その他	14	5	▲9

参考：サブセグメント別売上高 《四半期比較》



参考：地域別売上高比率《通期》

[北米]

- ・映像装置の販売が減少
- ・円高による減少

[アジア]

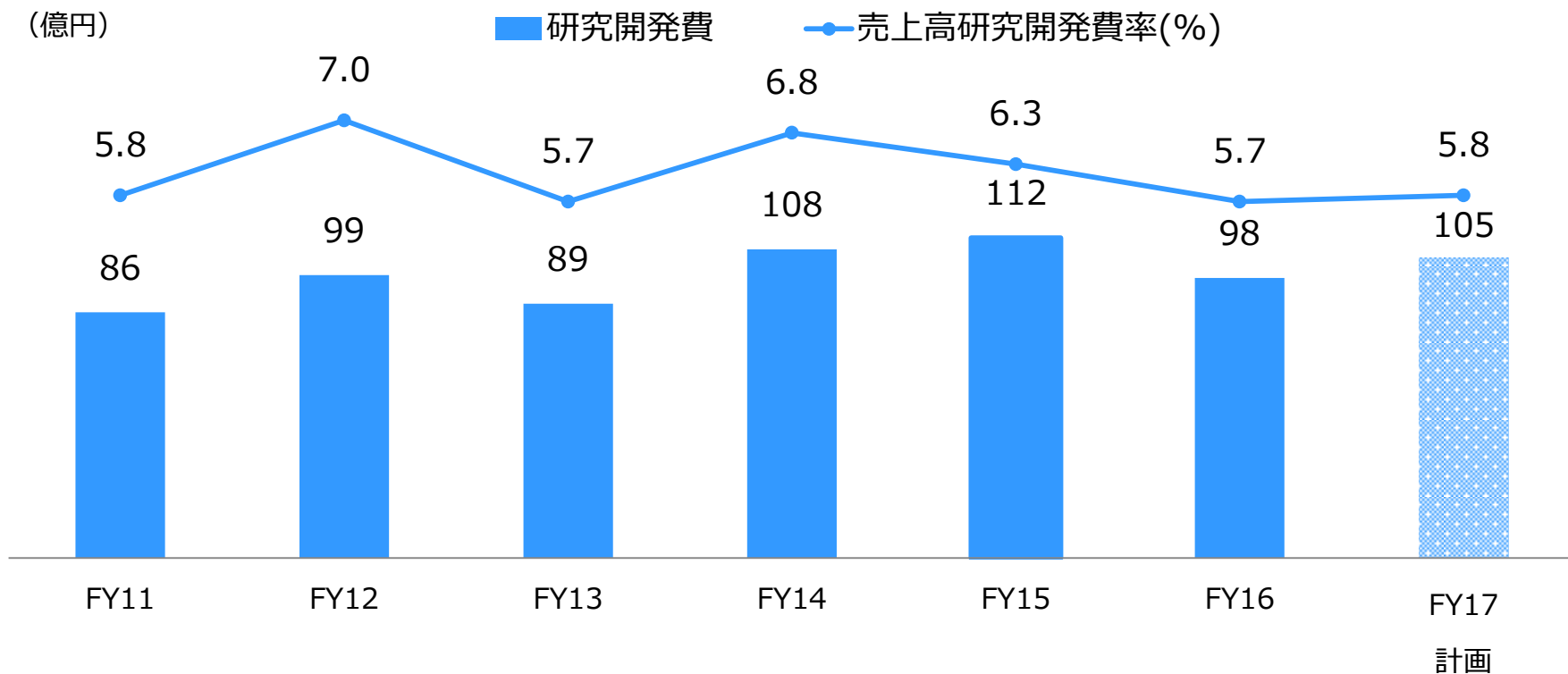
- ・中国での販売増加
- ・光学装置の販売増加

[欧州]

- ・DCPの販売減少



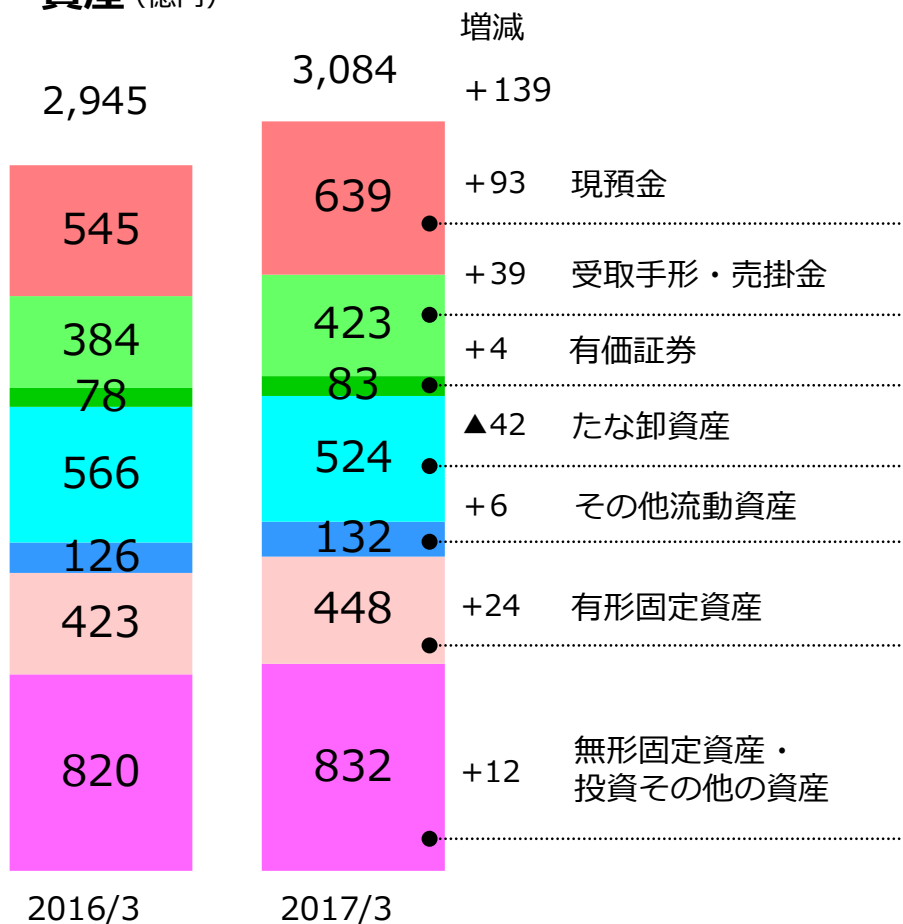
参考：研究開発費



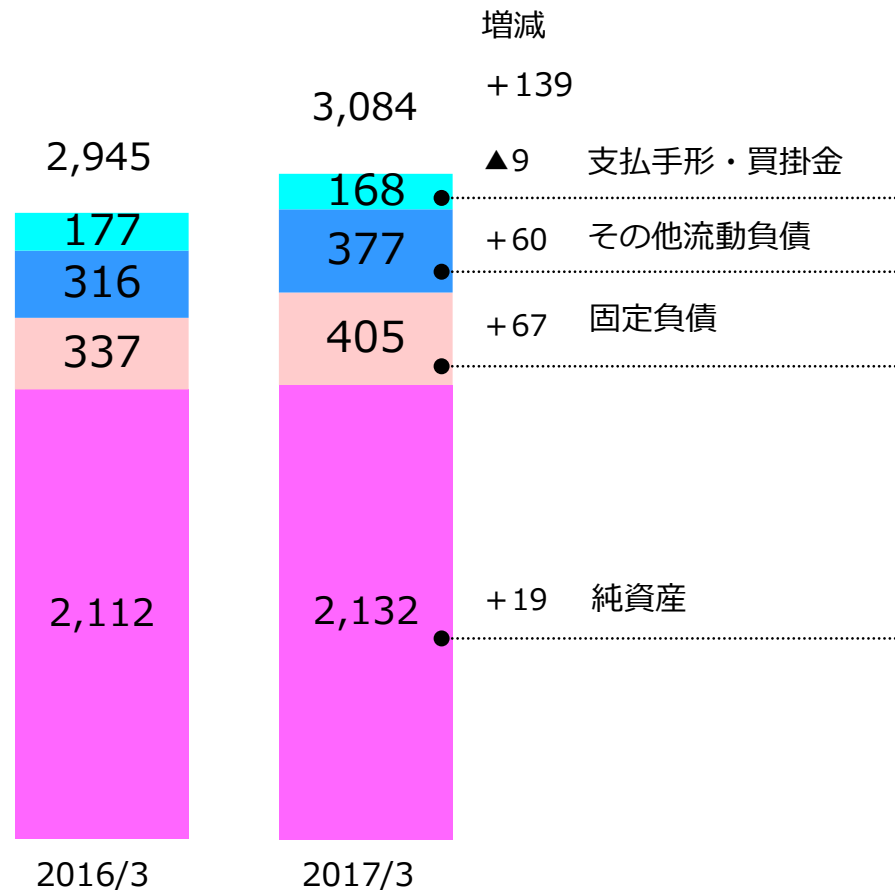
(億円)	FY15	FY16	YoY		7.29 公表	対計画	
			増減	%		差異	(%)
研究開発費	112	98	▲14	▲12.6	110	▲11	89.2
売上高研究開発費率(%)	6.3	5.7	▲0.6P	-	6.5	-	-

参考：BS

資産 (億円)



負債・純資産 (億円)



●回転月数 (ヶ月)

2016/3 2017/3

売上債権 2.6 2.8

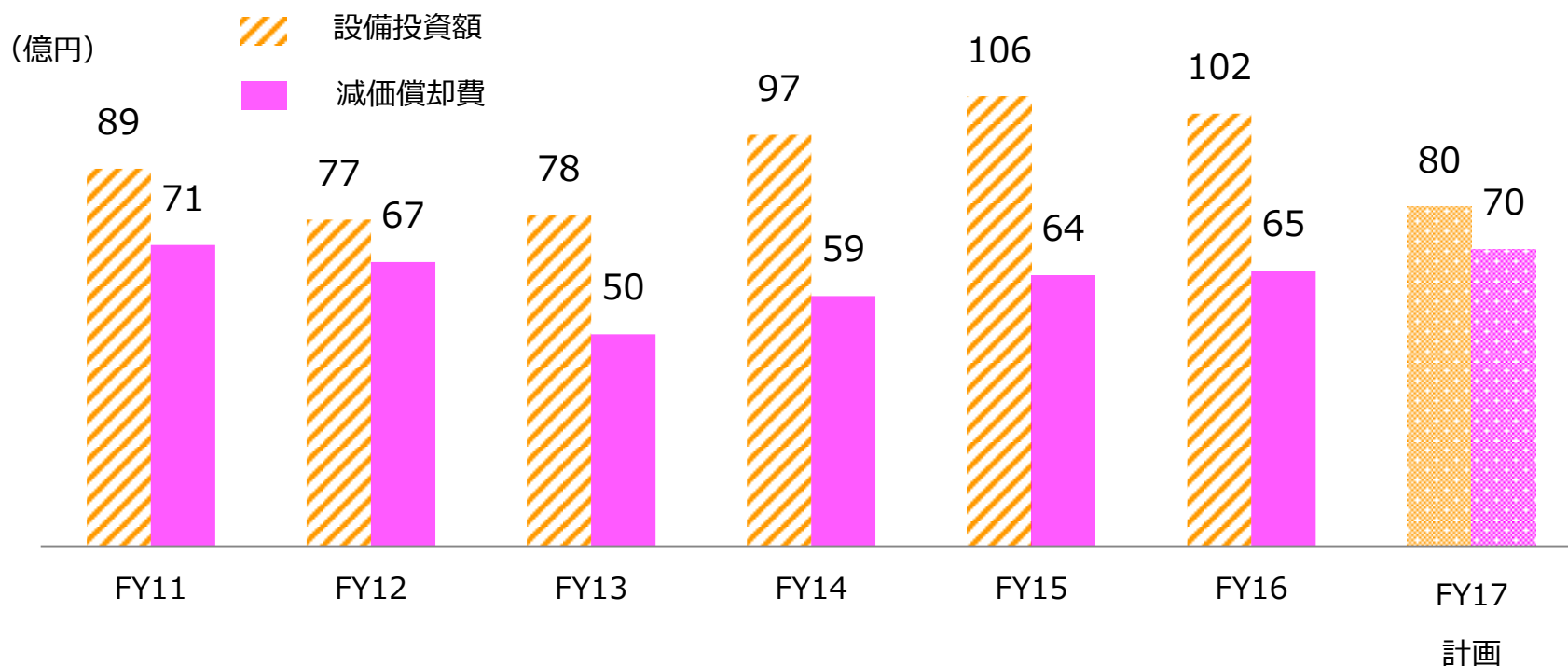
たな卸資産 3.8 3.8

●自己資本比率 (%)

2016/3 2017/3

70.9 68.9

参考：設備投資額・減価償却費



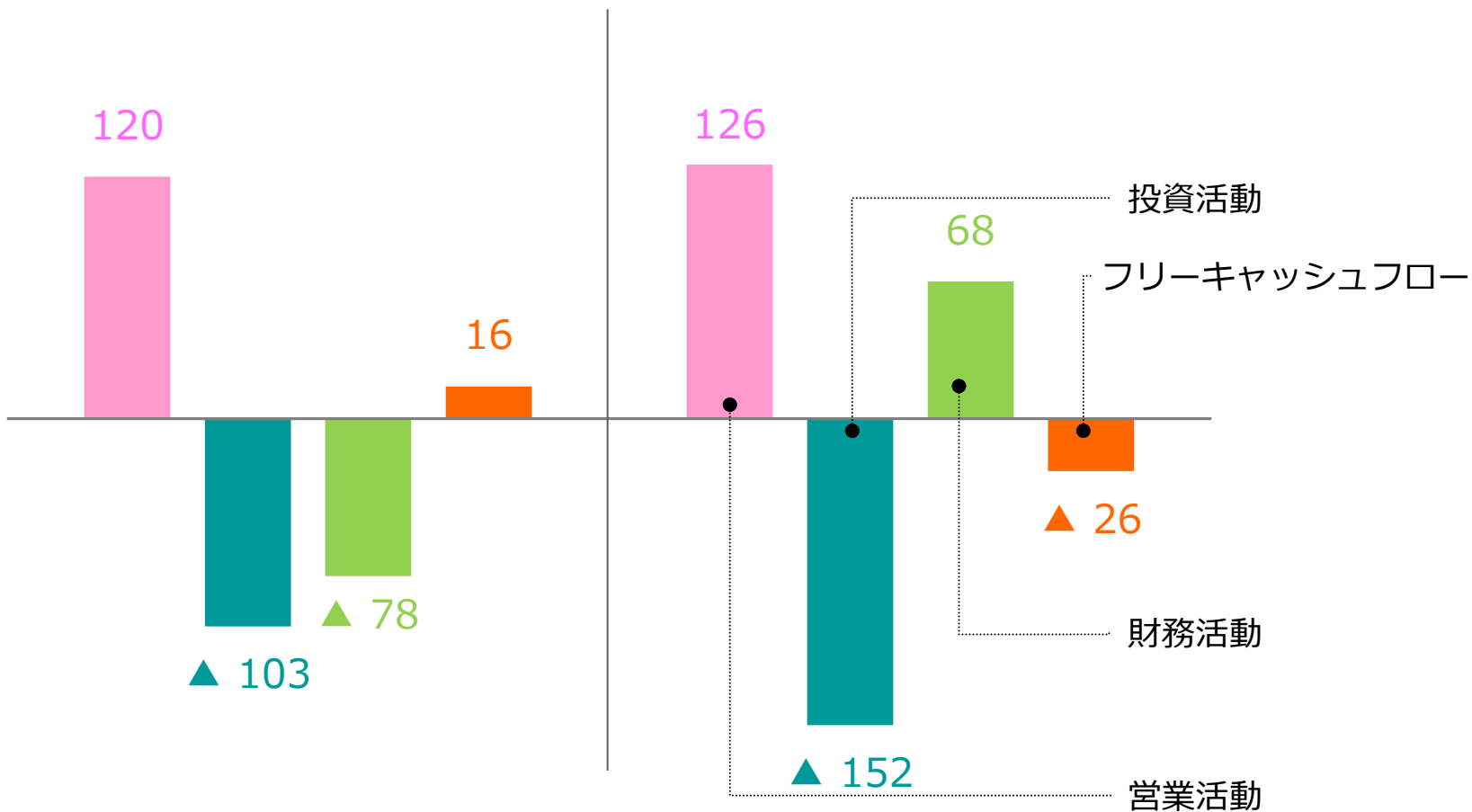
(億円)	FY15	FY16	YoY		7.29 公表	対計画	
			増減	%		差異	(%)
設備投資額	106	102	▲4	▲3.9	80	+22	128.1
減価償却費	64	65	+0	+1.4	70	▲4	94.1

注1：設備投資額は「有形固定資産」+「無形固定資産」。ただし、「のれん」は除く

注2：設備投資額に含まれない「のれん」増加額 FY15_通期：24億円、FY16_通期：4億円

参考：キャッシュフロー《通期累計》

(億円)



FY15

期首現金残高	569
期末現金残高	478

FY16

期首現金残高	478
期末現金残高	509

参考：自社株買いの状況

		金額	株数	期間
FY15	実績	20.0億円	1,138千株	2015年5月12日～2015年6月11日
	実績	9.6億円	640千株	2016年2月1日～2016年4月8日
FY16	実績	8.6億円	670千株	2016年5月12日～2016年6月13日
	実績	0.4億円	40千株	2016年8月1日～2017年2月28日

参考：用語集

DCP	Digital Cinema Projector	デジタルシネマプロジェクター
DI	Direct Imaging	直描
EUV	Extreme Ultra Violet	極端紫外(光)
I o T	Internet Of Things	モノのインターネット
OA	Office Automation	オフィスオートメーション
OLED	Organic Light Emitting Diode	有機EL

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）経営企画部
03-5657-1007
ir@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/>